

自治体・公共 Week2026

2026年5月14日(木) 15:30~16:20

於 東京ビッグサイト

超スマートガーデンポートシティ清水

—静岡市のまちづくり—

講演 静岡市長 難波 喬司 氏

静岡市は、ENEOS 株式会社と 2025 年 8 月に「静岡市清水区袖師地区を中心とした地域づくりの推進に係る合意書」を締結し、清水製油所跡地のうち「地域づくりエリア」における具体的なまちづくりの検討を進めてきた。その結果、市が 7.9ha の土地を取得し、地権者として土地区画整理事業に参画することを決定した。

新たなまちづくりは、富士山や駿河湾を望む絶景、JR 清水駅至近という交通利便性、約 14ha に及ぶ広大な敷地という強みを最大限に活かし、「超スマートガーデンシティ」の実現を目指す。その中核施設として、多目的スタジアムが最も有力と判断された。今後は、官民共創による事業手法や経済波及効果などを検証する実現可能性調査（フィージビリティスタディ）を実施し、2026 年度中に最終結論をまとめる。

多目的スタジアムと相乗効果を発揮する都市機能として、オフィス、商業施設、ホテル、マンション、学校、レジャー施設、子育て支援施設、文化施設、研究機関などが抽出された。

これらは、駅近という利便性と景観価値を活かし、広域からの集客や新たな雇用創出につながる。特にウォーターフロント型商業施設や景観を活かしたホテルは、滞在時間を延ばし、清水全体への回遊性を高める役割が期待される。

将来イメージはエリア中央にスタジアムを配置し、西側に商業施設を整備、駅からはペDESTリアンデッキで接続する構想が示され、全体を花と緑あふれる空間とし、「公園の中にまちをつくる」発想を取り入れている。

単なる跡地開発ではなく、清水の将来を左右する戦略的なプロジェクトで、多目的スタジアムを核とした「超スマートガーデンシティ」が実現すれば、清水駅周辺のみならず、静岡市全体へと経済・社会効果が波及する可能性がある。

まちの規模は違えど矢板市にも可能性を開ける講演だった。

2026 年 5 月 15 日（金）13:40~14:30

経験から学び未来へ備える 倉敷市の防災への取り組み

講演 倉敷市長 伊東 香織 氏

倉敷市は、平成 30 年 7 月豪雨という未曾有の被害を経験し、その教訓を「風化させない」「未来へ備える」防災・減災施策を推進している。

高梁川と小田川の合流点を下流に移動させる小田川合流点付け替え事業や、田んぼダムの普及啓発、個別避難行動計画の作成支援や、防災教育など、豪雨災害における経験から学んだ未来へ備える「ハード」と「ソフト」を融合させた防災の取り組みを推進している。

倉敷市では、地域防災計画と国土強靱化地域計画を柱に、防災と減災を進めている。地位防災計画は、市や関係機関、市民の役割を整理し、被害をできるだけ小さくすることを目的としている。

また、倉敷市国土強靱化地域計画は、国や県、民間事業者との連携のもとで、災害に強いまちづくりを総合的に進めている。

地域防災計画では、地域ごとの避難や訓練、避難行動計画づくりを支援し、自助と共助の強化を図っている。倉敷市は、普及啓発や訓練を通じて、継続的な地域防災活動を行う。

防災拡声塔の運用廃止に伴う代替策として、緊急情報の入手手段確保のため緊急告知 FM ラジオ購入の一部助成を行い、さらにスマートフォン利用者向けに、専用アプリで音声や文字の緊急告知情報を受信できる仕組みを導入する予定である。

あわせて、高梁川酒津地区では、国による堤防強化や笠井堰改築などの重点対策が進められている。

矢板市においても、2019 年の台風 19 号により、文化会館などの公共施設や民間施設などの被害を受けた。その教訓をもとに DX を活用し官民連携の防災・減災施策を推進していきたい。